

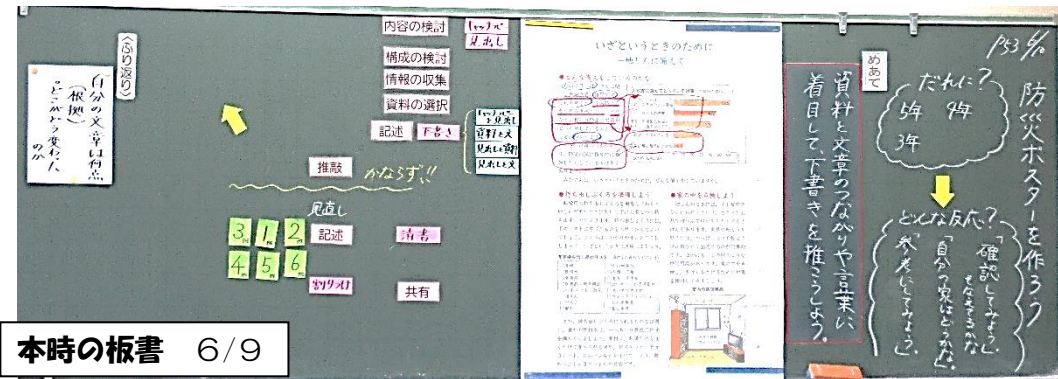
感染予防対策として、マスクを着用して学習しています。梅雨時の蒸し暑い中ですが、子どもたちも学習課題に向かって、よく頑張っていると感ずります。

今年度、最初の提案授業を武田先生に行っていただきました。本単元は、近いうちに起こりうると言われている南海大地震に備えておいてほしい、意識してほしいことを3~5年生に防災ポスターで伝えるという単元ゴールを設定していました。授業と事後研の様子をお知らせします。本時は、6/9時間目です。

単元名 「もう怖くない！ 南海大地震」防災ポスターを作ろう」全9時間
教材名 「防災ポスターを作ろう」 提案授業：6年2組 武田 教諭
身に付けさせたい資質・能力： 引用したり、図表やグラフなど資料を用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く力

学習の流れ

- 「もう怖くない！ 南海大地震」
学習の流れ（全8時間）
1. 学習の見通しを持つ
・これからどんな力が必要だろう。
 2. ポスターに必要な内容を探ろう(3)
・読み手の興味を引くキャッチコピーを考える
・キャッチコピーと繋がる見出しを考える
・教科書を基にしてポスターの書き方を知ろう
 3. 伝えたい内容に合う情報を集めよう(2)
・より伝えたい内容の情報を集める
・集めた情報の中からより伝えたいものを選択する
 4. 自分の考えが伝わるようなポスターを仕上げよう(3)
・報告文の下書きを書く
・推敲する
・清書をする
付きたい力
引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力



本時の板書 6/9



伝えたいことに合った資料と文章になっているかな



アドバイスを生かして文章を書いています

授業者のリフレクションシートより

目標 推敲チェックリストを活用すると、何ができて何が足りないのかより明確にできた。また、子どもが見つけた資料と文章のつながりなどを子どもの言葉で説明させるべきだった。今後、子ども自身に説明させていきたい。

課題 特活と関連させ、単元に入る前に南海大地震についての情報を得て身近に感じさせることができ、常に前向きに取り組めたことがよかった。また、「なぜ推敲するのか。」問うことで、必要感をもたせることができた。

見・考 言葉の掲示や宝箱を活用して照らし合わせながら推敲することができた。言葉の意味や漢字の表記など、もっとこだわらせることで、伝えたいことをはっきりさせ、正しい表現の仕方を理解できるようにしていきたい。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

1. 本時の目標は達成できたか。
 - ゴールが明確で必要感を持って活動し、資料と文章を関係付けて資料を示す言い方や接続語など、適切に文章を書けるように推敲できていた。
 - ▼「事実と考え」「正しく引用できているか」など推敲チェックリストを活用させたい。
 - ▼文章と資料だけでなく、伝えたい内容にもこだわらせたい。
2. 児童が本気になる課題の工夫があったか。
 - 題材「南海大地震」が身近で切実感があり、追求しがいがある。
 - 導入で「どんな反応をしてほしいか」を共有して推敲に入り、確率が5年生に伝わるか、80%が3年生に伝わるかなど、常に伝える相手を意識して話し合っていた姿が見られた。
 - 教師が子どもの姿を見取り、各班での話し合いを全体で共有し参考にさせていた。
 - ▼仲間の意見をそのまま取り入れて書き直すのではなく、個人で再考する必要があるのではないか。
3. 「言葉による見方・考え方」を働かせたための手立てがあったか。
 - 使わせたい言葉集めや「ことばの宝箱」の活用、各班のホワイトボードに推敲ポイントを示すなど、有効な手立てを講じている。
 - ▼伝えたいことを効果的に伝えるために資料を使わせたい。どこまでが自分の考えで、どこが引用なのかははっきりさせて書くことを大切にさせたい。



宗崎指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

- ①子どもが本気になる手立て
 - ・特別活動との関連 防災学習を通して「地震は怖い」「何とかして命を守りたい」→誰に伝えようか。必要感を持って進めている
 - ・適切な見取り 「〇〇さんが納得できるまで何度も書き直しているよ」目指したい児童の姿を全体へ広める
 - ・活動の必要性 やり取りを通してめあてを子どものものに
- ②学習過程〈書くこと〉の明示 子どもが見通しを持ち、自発的に次の活動へ向かうことができる。
- ③学習指導要領解説で推敲のポイントを確認(ポスターとしての一貫性)
 - 伝えたいこと(グループで決めたキャッチコピーに凝縮)に合っているか、効果的な資料・言葉になっているか、各自が書いた文章と資料を1枚のポスターとして、伝えたいこととすり合わせる必要がある。
- ④引用 「 」で用いることや出典など表記上の約束事を確実にさせる。
- ⑤子ども自身が話す どんな推敲をしているか、質を上げている対話の内容を子ども自身に話させる。

付きたい力と他教科等との関連を図り、学活でのDVD視聴で、子どもたちは切実な課題意識を持って学習を進めていました。大野先生(1組)が先行授業をされ、改善しながら毎時間を積み上げ、ポスターを仕上げるまで行きつ戻りつするであろう学習過程を示し、子ども主体の活動を目指していました。穏やかな口調で子どもに問い、反応を促し、言葉に着目することを要求し、活動中の子どもの姿をよく見取って授業されていた武田先生。伝えたいことに応じた資料選択に関わって入念に準備するなど、付きたい力に向けて単元づくりを行っていました。今回、提案授業をしていただき、子どもの学ぶ姿から協議を行い、今後の研究を進めていくことができます。本当にありがとうございました。



ポスターを仕上げています

研究主題は「目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方」、この主題に迫るための副題は、『文章の種類や特徴に応じた書き表し方の工夫』です。文章の種類〇〇文を書く上でのポイントを大切に、子どもたちの書く力を伸ばしていきたいです。